

高齢者の「带状疱疹」の定期予防接種について

接種には本人の意思が大切です。接種を検討している方は、本説明書や製薬メーカーが作成したワクチンごとの説明資料でワクチンの効果や副反応の詳細をご確認ください。

1. 带状疱疹について

带状疱疹は、水痘（みずぼうそう）のウイルスが原因で起こります。水痘が治った後もウイルスは体内に潜伏していて、加齢や過労、ストレス等で免疫力が低下すると、ウイルスが再び活性化して带状疱疹を発症します。

発症すると、体の片側に水疱を伴う紅斑が帯状に広がり、痛みを伴うことが多く長期間続きます。症状の多くは上半身にあらわれますが、顔や目、頭などにあらわれることもあります。他の人から感染して带状疱疹になるわけではありません。

2. ワクチンの効果について

水痘・带状疱疹ウイルスに対する免疫が増強され、带状疱疹の予防が期待されます。

3. ワクチンの種類・効果と副反応

| ワクチン種別 | 乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」(生ワクチン) | 乾燥組換え带状疱疹ワクチン「シングリックス」(組換えワクチン) |
|--------------------|--|--|
| 接種方法 | 皮下注射 | 筋肉内注射 |
| 接種回数 | 1回 | 2か月以上の間隔をおいて2回 ※ |
| 発症予防効果 ※接種後5年時点 | 4割程度 | 9割程度 |
| 持続性 | 5年程度 | 10年程度 |
| 副反応 | 注射部位の発赤、掻痒感、熱感、腫脹、疼痛等 重大な副反応として、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病等があらわれることがある。 | 注射部位の疼痛、発赤、腫脹、筋肉痛 重大な副反応として、ショック、アナフィラキシーがあらわれることがある。 |

※病気や治療により、免疫の機能が低下したまたは低下する可能性がある方等は、医師が早期の接種が必要と判断した場合、接種間隔を1か月まで短縮できます。

4. 予防接種を受ける前に

- ① 予防接種を受けることができない方
 - ・明らかに発熱している方（一般的に、体温が37.5℃以上）
 - ・重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
 - ・ワクチンに含まれる成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある方
 - ・その他、医師が不適切な状態と判断した方
- ② 接種前に医師に相談が必要な方
 - ・心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患がある方

※裏面へ続く

- ・過去の予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた方や、全身性の発疹などアレルギーが疑われる症状が出たことがある方
- ・今までにけいれんを起こしたことがある方
- ・過去に免疫不全と診断されたことがある方、もしくは近親者に先天性免疫不全の方がいる方
- ・このワクチンに含まれる成分でアレルギーを起こすおそれのある方
- ・血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施している方（※乾燥組換え帯状疱疹ワクチンを接種する方）

5. 予防接種を受けた後の一般的注意事項について

- ・接種後30分程度は病院にいるなどして様子を観察し、アレルギー反応などがあれば医師とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。
- ・乾燥組換え帯状疱疹ワクチンを接種された方は、接種後に注射による心因性反応を含む血管迷走神経反射として失神することがあります。失神による転倒を避けるため、接種後30分程度は病院で背もたれのある椅子に座って、体調の変化がないことを確認してから帰宅しましょう。
- ・接種当日は激しい運動は避け、接種部位を清潔に保ってください。接種当日の入浴は差し支えありません。
- ・接種後に接種部位の異常な反応や体調の変化、高熱、けいれんなどの異常な症状があらわれた場合には、すぐに医師の診察を受けてください。

6. 予防接種健康被害救済制度について

予防接種では健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。極めて稀ではあるものの、なくすことができないことから、救済制度が設けられています。

予防接種によって健康被害が生じた場合、その健康被害が接種を受けたことによるものであると厚生労働大臣が認定したときは、予防接種法に基づく救済（医療費・障害年金の給付など）が受けられます。

申請に必要となる手続きなどについては、予防接種を受けられた時に住民票があった市町村にご相談ください。

7. その他情報について

松山市ホームページ

<https://www.city.matsuyama.ehime.jp/kurashi/iryo/hokenyobo/yobo/taijyouhoushin-teiki.html>

